

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3790100238		
法人名	悠悠 有限会社		
事業所名	グループホーム悠悠庵治の太陽		
所在地	高松市庵治町 3822番地1		
自己評価作成日	平成25年9月1日	評価結果市町受理日	平成24年1月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/37/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JiryousoCd=3790100238-00&PrefCd=37&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号
訪問調査日	平成25年10月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様一人ひとりの「笑顔」を大切に、できることを活かし、生き生きとした生活を送っていただけるような支援を、また、ご家族様との関係を大切に、深く関わって共に歩んでいくことを心がけている。定期的に勉強会を行うことにより、職員は「認知症」という病気を正しく理解し、入居者様の不安を取り除き、普通の生活を楽しく送ることができるように支援している。ご家族様、近隣の方々との協力を得て、地域の資源を活用したり行事に招待することで、社会の一員として活動できるように常に考えている。医療面は、主治医との連携に努め、また、病状の早期発見、緊急時の対応を迅速に行えるよう、研修等を通じて知識を向上させている。災害対策については委員を中心に、現在取り組んでいる最中である。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

「笑顔」を理念として掲げ、管理者をはじめ職員は笑顔で利用者・地域の方々に接し、良好な関係が築かれている。事業所として積極的に地域の奉仕活動や集会に参加するとともに、事業所の行事・講習会の案内を行う等、地域との交流を推進している。
職員は利用者の話を聴こうとする姿勢で接しており、利用者の穏やかで落ち着いた姿が見られることから、職員・利用者共に、良い環境の中で共に過ごしていることが感じられる。職員間のコミュニケーションも良く、情報の共有も図れ、また定期的に講習会・勉強会を実施するなど、事業所の質を高めていく姿勢がうかがえる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑顔」という理念のもと、入居者様と関わっていくようにしている。毎朝の申し送りの時に、笑顔作りのトレーニングをすることにより、職員間での理念の意識づけをしている。	職員全員で理念を考え、その理念を共有している。感謝の気持ちを持ち、利用者一人ひとりの笑顔を大切にしたり関わっている。外部・地域の人に対し理念に基づく行動を実践し、良好な関係が築けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月1回程度、近隣の店等を利用し、交流を図っている。また、5月に事業所内でお祭りを行い、自治会の集会に参加させていただき、周知をした。	散歩時に挨拶や言葉を交わし、地域の方と顔なじみになっている。事業所は地域の奉仕活動や自治会の集会へ積極的に参加し、事業所で実施する行事や講演会の案内をするなど、地域と交流をしている。AED設置に伴う講習会を計画中である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の際に、事業所での勉強会の内容を報告したり、身体拘束廃止委員会の結果報告等を通じて、認知症の人の理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでの取り組みの話をしたり、地域の情報やご意見を頂戴し、それを参考にしてサービス向上に活かしている。	運営推進会議は隔月に開催されている。事業所の状況報告、参加者からの質問・提言、市役所等からの伝達事項などを行い、意見交換をしている。参加者からの意見・要望を参考にし、サービス向上に活用している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を中心に、実情やサービスの取り組みを伝えている。入居時や入居後の困難事例については、地域包括支援センターの職員に相談し、協力していただき問題を解決している。	運営推進会議を中心に、市や地域包括支援センターとは日頃から交流を行い、指導や協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に1回、身体拘束廃止委員会を開催し、意見交換の場を持っている。勉強会でも取り上げ、職員の理解を深めている。玄関にチャームを取り付けることにより、日中玄関を開放している。	身体拘束の事例はない。気になる事例は勉強会で話し合い、身体拘束のないケアを実践している。玄関にチャームを設置し、施錠はしていない。日中戸外で過ごす利用者に対し、見守り介護を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会の中で講師より指導を受けている。また、毎月のミーティングの中で、利用者様との関わり方等について話し合い、意識を向上させている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会にて講師から学ぶ機会を設けている。現在必要な方はいないが、今後必要に応じて支援していく。成年後見制度についての資料をご家族様にお渡しして、参考にしていただいた事例がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に見学に来ていただき、質疑応答にも答えている。また、「グループホームQ&A」を作成しており、内容を分かりやすく理解していただけるよう配慮している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様が生活されている時の小さな変化を見逃さず記録し、毎月のミーティングで職員全体で話し合い、検討している。ご家族様とは連絡を密に取り、また毎年一回アンケートを実施し、運営に反映している。	年1回、家族アンケートを実施し、結果を運営に反映させている。各担当者が、家族に電話・書面で近況報告をする際にも、意見・要望を聴いている。今年度、家族会の開催を計画しており、利用者・家族の意見・要望を積極的に聴く姿勢がうかがえる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングの際に意見交換し、本部での定例会議にて、運営者にその意見や提案を述べている。	毎月のミーティング時に意見交換が行われている。日頃から管理者は、職員が意見を出しやすい雰囲気作りと聞く姿勢を持ち、職員の意見・提案を本部に報告し、運営に反映できるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度を取り入れることにより、職員が仕事へのモチベーションを上げることができるように体制を作っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修内容の情報を職員に知らせたり、各職員に必要な研修を受ける機会を設け、それを内部研修にて発表し共有している。また、年間行事の中に職員研修を取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在はできていないが、これから同業者と交流し、サービスの質を向上させる取り組みを行っていく。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に事業所を見学していただき、不安なことや要望等を十分にお聴きし、信頼関係を築けるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の困っていることや気になっていること等を十分にお聴きし、ご入居までの不安な点を解消できるよう、連絡を取り合うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状態を把握するために、初回の面会の際から担当のケアマネージャーやご家族様から情報を提供していただき、本人様やご家族様が必要とされているサービスを見極めるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人としての尊厳を大切に、さまざまなことを教わったり、協力して一緒に成し遂げることにより、信頼し、支えあえる関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や行事、担当者会議等で話し合いの場を持っている。日常生活の変化で喜怒哀楽を共有することで、共に歩んでいるという実感がある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔の友人と交流したり、連絡を取り合い事業所に足を運んでいただいたり、可能な限り行きたいところに行けるよう支援している。	馴染みのスーパーなどで、買い物や知人・友人との会話を楽しんでいる。利用者の馴染みの場所・人との関係を尊重している。墓参りなどの要望に対しては家族の協力を得て、実現できるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係性を理解した上で、自分のペースでゆったりと過ごされる場所や、食事の席等を配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、利用者様やご家族様との関係を断ち切らないようにしており、相談に乗るようにしている。退居後、同じグループの事業所が引き続き支援している例もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりから可能な限り要望を聞くようにしている。入居者様やご家族様の視点に立ったケアができるように、ミーティング等を利用して、話し合って検討している。	利用者一人ひとりの思いや暮らし方を、なげない日々の会話のなかから職員は聴き取り、得た情報はミーティングなどで共有している。利用者は職員に自分の思いや要望についてよく話をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居される前に面談をし、ご家族様や本人様から聞き取りを行い、またバックグラウンドや生活の様子シート等を利用して、これまでの暮らしや生活環境の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の記録に、その日の行動や言動等を記録し、現状の把握に努めている。本人様に変化があれば、その都度意見交換し、現状把握できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントとモニタリングを定期的に行い、介護計画を作成している。計画のもとに、家族様、主治医等で話し合い、本人様や家族様の要望があれば計画に反映させ、ケアを提供するようにしている。	本人・家族・職員からの情報をもとに、管理者・計画作成担当者を中心に全職員で作成している。アセスメントとモニタリングは定期的実施し、状況変化時には随時、評価・修正を行い、現状に即した計画を作成して、本人・家族に説明し同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	普段と違った発言や行動を見逃さず記録し、職員間で情報を共有している。入居者様に変化があればカンファレンスを開催し、職員間で話し合い、意見交換し、介護計画に取り入れるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様からの希望があれば、利用者様の居室やゲストルームに泊まっただけのように、寝具を用意している。ホームとご家族様が気兼ねなくお付き合いできるように、柔軟な支援をするように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を利用して、地域の方々や地域包括支援センターの職員、市の職員と意見交換し、施設を利用させていただいたり、行事に参加させていただいたりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様やご家族様の意見をお聞きし、支援している。また、事業所近くの病院と協定書を結んでいるので、救急の際にも安心できる。	かかりつけ医との継続を大切にしている。定期受診は基本的には家族が同行するが、状態に応じて柔軟に対応している。協力医療機関の医師が月2回往診に来ており、緊急時・夜間対応の支援も可能である。受診結果は共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の様子や変化等を共有できるように、申し送りや連絡ノートにて把握できるようにしている。ホーム内に正看護師を配置しており、看護面で何かあればすぐに連絡が取れる体制にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	本人様が入院された際は病院に足を運び、ソーシャルワーカーや看護師に話を聞き、状態の把握をするようにしている。医師とはできるだけ早期に退院できるよう、話し合いを持つようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期や重度化された場合のことに関しては、入居時にご家族様からの希望をお聞きしている。気持ちの変化がある場合もあるので、機会を見ながら話し合いの場を持つようにしている。また、必要であれば主治医とも話し合い、方針を共有している。	入居時に重症化・終末期のあり方について利用者・家族の思い・要望を聴き、事業所に対応できる介護について説明している。看取りの経験はないが、重症化・終末期の対応について利用者・家族の意向に沿えるよう、管理者・職員が取り組んでいる。	重症化・看取りに事業所として対応するためには、その体制づくりと管理者・職員の方針の共有が不可欠であり、関係者との十分な話し合いが望まれる。事業所での看取りを行う姿勢を推し進め、具体化することを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時の対応や救急時の対応を、職員の勉強会の中に定期的に取り入れている。その他にも消防署に協力していただき、救急の講習やAED等の実践訓練をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立ち会いにて避難訓練を行い、全職員が参加するようにし、近所の方々にも参加していただけるように働きかけている。また、災害対策委員会を立ち上げ、話し合いを行っている。	年2回、夜間も想定した避難訓練を行い、消防署の指導も受けている。地域の協力も得られ訓練へ参加していただいたが、災害時の役割が明確でない。災害対策委員会を設置し、毎月自主訓練を行っている。	地域の協力をより高めるため、避難誘導における地域の役割を明確にすることが望まれる。また、火災以外の災害時マニュアルを作成し、安全・確実に職員が避難行動ができるよう、災害対策委員会を中心に訓練の継続を期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「プライバシー保護の取り扱いマニュアル」を作成している。個人情報について適切な取り扱いができるよう、講師による勉強会やミーティング時に話し合うようにしている。	利用者の尊厳を損なうような言葉かけや態度はみられない。一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーに配慮した対応ができています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自立の可能性を最大限に引き出せるよう支援し、残されている能力を活用でき、自信が持てる生活ができるように支援している。会話を多く持ち、自分で選択したり、自己決定できるようサポートしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の生活の中で、利用者様一人ひとりがどのように過ごしていきたいか、自分の気持ちを話せる環境を作り、ご希望に沿えるよう援助している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に美容師が訪問し、一人ひとりのご希望に応じて、カットやカラー、パーマ等を行っている。その日に着る洋服やパジャマと一緒に選んだり、その人らしさが見えるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様一人ひとりに応じた食事形態を用意できている。食事前には嚥下体操を行い、食事中は利用者と一緒に会話を楽しみ、よい雰囲気の中で食事ができている。	利用者一人ひとりの力が発揮できるよう、当番制で準備等を行っている。食事中はBGMが流れ、穏やかな雰囲気の中で、利用者は職員とともに食事を楽しむことができている。希望メニューやおやつ作り、外食など、楽しく食事をする工夫がされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日食事量や水分量をチェックしている。献立は栄養士が作成している。水分をあまり好まれない方には、ポカリスエットやヤクルト等、本人様の好きな飲み物を飲んでいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけをし、義歯洗浄を含めてその人にあつた方法で清拭を保っている。十分にできていない方や拒否する方は、職員が声をかけたり介助をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失禁のある方には排泄チェック表を作成し、排泄パターンを把握して定期的に声かけ、誘導を行っている。本人様が拒否される時には無理強いせず、時間を置いて声かけし、支援している。	利用者一人ひとりの排泄パターン、排泄前の動作などを職員は把握しており、個々に応じた言葉かけ、誘導を行い、排泄の自立を支援している。夜間も定期的に声をかけ、安全に排泄ができるように見守り、支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や繊維質の多い食品を取り入れたたり、水分補給や毎日運動し、力をかけることにより自然排便ができるように取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそつた支援をしている	入居者様一人ひとりのADL(日常生活動作)や症状に合わせた支援を行っている。利用者様のバイタルを測定し、体の状態、その日の希望を優先している。	入浴は週2～3回実施している。日中に入浴をする利用者が多いが、利用者の状態や要望に即した入浴支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動時間を増やすことで、夜間良眠できるようにしている。不眠を訴えられる場合はそばに寄り添ったり、傾聴したりして、安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を個別にまとめ、職員が内容を把握できるようにしている。薬の目的や副作用を理解し、飲み忘れのないようにしている。症状の変化があれば、医師に相談して指示を仰ぐようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様一人ひとりの生活歴や趣味を把握し、日常生活の中での役割や楽しみを持って生活できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には近隣を散歩したり、花の水やりや草抜きをしたり、玄関先で日向ぼっこをする等、戸外へ出る機会をできるだけ作っている。また、利用者様にご希望を聞き、定期的に外食や買い物等の機会を作っている。	事業所からは海が見え、周囲にはのどかな田園が広がっている。天気の良い時は散歩に出かけている。利用者の希望により、ドライブ・外食・買い物・健康ランドなどに出かけたり、花見、紅葉狩りなど、四季折々に利用者全員が外出できるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金の所持したり使えるように支援している	お金の所持は個々の能力に応じて管理している。自己管理が困難な方については、ホームで管理するようにしている。外出時には、お小遣いからお買い物や食事をされ、お小遣い帳にて管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話や手紙のやり取りができるように支援している。ご希望があれば封筒も用意し、いつでも書けるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間に時計、カレンダー、時計等を置き、また、季節ごとの小物や貼り絵等を飾り、季節感のある居心地の良い空間を作っているようにしている。	玄関には季節の花々が咲き、共用の空間は整理・整頓・清掃がなされ、明るく、室温は適温に保たれている。壁や棚には、季節の小物や季節に応じた飾り付けがなされ、居心地よく暮らせる工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事用の席以外にソファを置き、仲のよい方で談笑されたり、一人でのんびりできるような空間を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用していたものを居室に置いていただいている。花を好まれる方には家から植木等を持ってきていただき、居心地良く暮らしていただけるよう配慮している。	居室はフローリング仕様で整理が行き届き、自宅で使用していた馴染みのある筆筒、置物等が置かれ、居心地よく過ごせる工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、廊下、浴室には手すりを設置している。台所も安全性を考慮し、IHクッキングヒーターにしている。生活の中でできることは見守り、可能な限り自立した生活を送っていただけるように心がけている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価結果

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
I. 理念に基づく運営			
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	庵治の太陽の理念「笑顔」と、空ユニット固有の理念「笑顔と安らぎ」をユニット職員全員が共有し、入居者様に笑顔を絶やさず安らぎを感じていただけるよう、毎日のケアに取り組んでいる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	散歩時、事業所周りを歩き、近所の方々と挨拶を交わし、顔見知りになっている。運営推進会議にも入居者様に交代で参加していただき、地域の方々と交流していただいている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で入居者の事例を話し合ったり、また地域の方から認知症について相談等があれば、支援方法などお話ししている。
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方や家族様から、ホームに対する意見や要望等をいただき、そのことを参考にサービス向上につなげ、取り組んでいる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にて入居者の困難事例を発表し、第三者的立場で助言をいただき、協力を得ている。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束廃止委員会を開催し、職員と意見交換の場を持ち、ケアをする上で個々の安全、拘束のない日常生活を支援している。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内で定期的に専門講師による指導を受け勉強している、また、ミーティング時に日々のケアを振り返り、虐待がないか話し合っている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に専門講師から制度について学んでいる。日常生活自立支援事業を利用されている入居者もおられる。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に見学に来ていただき、分からないこと、疑問点、不安点などに対して説明を行っている。また、不明な点はいつでも連絡下さるようお話している。書面でのQ&Aもお渡ししている。
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回匿名で「家族様アンケート」を実施し、後日内容を集計し、改善点等を書面にて家族様に報告し、職員全員でも改善点、問題点について話し合いを持っている。また、日々の状態変化の著しい方の記録は細かく記入している。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングで意見交換を行い、職員の意見や提案は、毎月の本部会議で運営者に提案を述べている。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	「自己評価シート」を職員全員が年二回作成し、管理者から見た評価を行っている。また、個人面談を定期的に行い、向上心を持って働けるよう努めている。
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月第3金曜日に介護講習会を実施し、また、外部研修についても、各職員に必要なものを受ける機会を設けている。
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在はできていないが、これから同業者との交流を持ち、相互の行事等への参加を行い、サービス、質の向上に取り組んでいく。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ホームの見学をしていただき、雰囲気を知っていただくことが大切だと考えている。また、不安や要望をお聞きし、安心した生活が送れるよう相談に乗っている。
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の悩みや要望をお聞きし、不安を取り除けるよう提案している。一緒に悩んだり解決することで、信頼していただけるよう取り組んでいる。
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回面会時から、不安や困っていること等、十分に実情や要望をお聞きしている。状態把握するために、以前利用されていた事業所や介護支援専門員に情報提供をお願いし、今後の対応に活かしている。
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人としての尊厳を大切に、これまでの生活や生き方を把握し、昔の知恵や人として学び、支えあえる人間関係を築いている。
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時やホームの行事の参加、担当者会議の出席等で話し合いの場を持っている。生活面、身体的な問題があれば、電話や手紙で相談し、家族と一緒に本人を支えている。
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔住んでいた場所や思い出深い場所をお聞きし、要望があれば可能な限り、訪問できるよう支援している。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、食事の席や生活面においての環境づくりをしている。状態に応じて職員が間に入り、交流が持てるよう支援している。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もホームでの生活状況について、介護支援専門員に報告したり、家族様、本人様と電話などで相談に乗っている。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	どのような暮らし方がしたいか本人様に意向を聞き、把握するよう努めている。本人確認が困難な場合は、家族様からお聞きした情報から汲み取っている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に「バックグラウンド」等の独自のシートを活用し、できるだけ多くの情報を収集し、これまでの暮らしを知るために、生活歴や状態の把握に努めている。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	共に生活する中で、できること、できないことを見極め、一人ひとりの毎日の生活状況を記録し、本人様に変化があれば職員間で話し合いをして、現状把握に努めている。
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族様、主治医、職員などが、必要な情報を共有しながら話し合い、そこから必要なものを見極めて、毎日の暮らしをより良くしていけるよう計画を作成している。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	状況変化を見逃さず詳しく記録し、毎月のミーティングや必要に応じてケアの実践結果などを話し合い、計画の見直しを行っている。
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	畳の部屋をゲストルームとして設け、希望があれば宿泊できるよう寝具を用意している。様々な要望にもできるだけ対応できるようにしている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議の際に、地域包括支援センターの方や、民生委員、地域の方々との情報交換を行い、今後の行事に参加していただけるように相談をしている。
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に本人様、家族様から希望する医療機関をお聞きしている。また、事業所近くの医師が月2回往診に来ており、緊急時、夜間も連絡し、対応してもらえる。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	正看護師を配置しており、看護面で何かあれば昼夜問わず、すぐに対応できる体制を整えている。
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合には頻繁に病院へ足を運び、状態把握し、家族や医師、看護師と連絡を密にし、早期退院に向けて話し合いを行っている。
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、終末期について家族様からの希望を聞いている。まだ看取りの経験はないが、その都度話し合いながら意向を確認し、思いを汲み取れるよう取り組んでいる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に事故発生時の対応や救急時対応は、勉強会やミーティングで取り入れている。ホーム内にAEDを設置し、講習を定期的実施している。
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防訓練を行い、夜間を想定した訓練も行っている。訓練時は近所の方々も参加していただけるよう働きかけている。災害時マニュアルは見直しを重ね、消防署の方の助言をいただいている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ミーティング時に言葉かけや対応についてロールプレイを行ったり、個人情報について適切な取り扱いができていないか話し合っている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話を多く持ち、その方の表情や仕草等で日々観察し、自信が持てる暮らしができるようサポートしている。また、自分で選択できるような場面を作り、力量を発揮できるよう取り組んでいる。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりとじっくりと関わり、日々をどのように過ごしたいか自分の気持ちを話せるような環境を作り、希望に沿えるよう支援している。
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の服装を入居者と一緒に選んだり、洋服を一緒に買い物に行き、好みの物を選んで購入している。定期的に美容師が訪問し、本人の希望を聞いてカットや毛染めを行っている。
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の力量に合わせて野菜切り、盛り付けなどを職員と一緒にやっている。食事中はBGMをかけて穏やかな雰囲気の中で、職員と会話を楽しみながら食事を行っている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が献立作成をしている。脱水症状に気を付け、水分摂取量の少ない方にはスポーツ飲料などを用意し、水分量が確保できるよう支援している。
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけを行い、実施している。十分磨けない方に対しては、職員が介助にて行っている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて個々の排泄パターンを把握し、定期的な誘導、声かけを行っている。本人が拒否される場合は時間を置いて声かけ、支援している。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維の多い野菜や乳製品を取り入れ、水分摂取にも気を配っている。便秘症の方には医師と相談し、対応策を考えている。
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2～3回の提供となっているが、本人の希望や体調に合わせて支援している。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中活動を増やし、夜間安眠できるようにしている。不眠が続くようであれば医師に相談し、安眠できるよう支援している。
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬の内服表をファイルにまとめ、すぐに確認できるようにしている。状態に変化があればすぐに医師に相談し、指示を仰ぐ。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	気候の良い時期には1日1回、外気浴を行うようにしている。日常生活において、役割や楽しみを持った生活を支援している。毎日の表情や状態を観察し、楽しみが持てるよう声かけしている。
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩へ行ったり、玄関先で日向ぼっこしているが、雨天の時でも、玄関先で外の景色を眺めることで気分転換になっている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できない方はホームで管理している。買い物に行った際はお金をお渡しして、自分で支払いできるように支援している。
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話をかけたリ、手紙を送れるよう支援している。
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に整理整頓に心がけ、共有のスペースには花などを置き、心地良く生活できる空間作りをしている。季節に応じた飾り付けをしたりして、季節感を出す工夫をしている。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	3人掛けのソファをリビングに置き、仲の良い方々が会話を楽しまれている。また、居室にて会話を楽しまれる方もいる。
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を持ってきていただき、今までの生活環境をなるべく崩さないようにしている。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、浴室、廊下には手すりを設置している。また、居室、トイレの場所が分からない人がいらっしゃるの、目線に合わせた表札や居室の入り口にお花をつけたりして、迷わないように工夫している。